

資料紹介

ナチス・ホロコースト関係ドキュメンタリー映画目録 —山形国際ドキュメンタリー映画祭応募作品より—

山 崎 彰

ドキュメンタリー映画「ショア」SHOAH (Claude Lanzmann 1985年) は、ホロコーストを扱った記録映画の中で、現在もお金字塔としての意味を持っている。「ショア」による衝撃を受けて、その後世界では多数のホロコーストを扱った記録映画が制作された。山形国際ドキュメンタリー映画祭は1989年に開設されたこともあり、応募作品の中にはこれらの映画が多く含まれている。対象をホロコーストに限らず、ナチスが犯した戦争犯罪や弾圧の記録まで含めると、200作品は下らないと思われる。現在これらの作品は「山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー」(〒990-0076 山形市平久保100)に収蔵されている。これらの映画は、「ショア」発表後の記録映画として高い価値を有する。以下では、山崎が視聴した作品について、その概略を紹介する。

【凡例】

- (1) ライブラリー (認定 NPO 法人・山形国際ドキュメンタリー映画祭付属) には全体で、ナチス・ドイツやホロコースト関連の作品として、二百数十作品が収蔵されていると思われる。従って以下のリスト掲載作品は収蔵品の一部にすぎない。また2017年以降に収蔵された作品には調査は及んでいない。
- (2) ライブラリーが付した日本語訳題名に、明らかな誤訳がある場合は、訂正している。
- (3) 記載データは、「山崎の分類番号」「作品名 (日本語・英語)」「監督氏名」「制作年」「制作国」「ライブラリー作品番号」「時間」の順番。
- (4) ほとんどの映画に日本語字幕はない。たいていの映画には英語音声か英語字幕がついているが、これらのない映画も一部ある。
- (5) 一部の映画は映画祭事務局の許可があれば、貸出・上映可能であるが、ほとんどの映画は「山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー」(山形市平久保) 内で視聴が許されているだけである (無料)。貸出作品と料金、視聴方法、収蔵作品検索については以下を参照。<https://www.yidff.jp/library/library.html>
- (6) 永岑三千輝氏 (横浜市立大学名誉教授) と木畑和子氏 (成城大学名誉教授) は本リストに目を通し、誤りを訂正してくださった。その後の筆者の加筆などで、新たな間違いが生じた可能

性があるが、これらの責任はすべて山崎に属す。お二人には深甚なる感謝を申し上げる。

A ナチス体制と戦争責任

A-1 「罪と記憶」 Guilt and Remembrance 監督：Egon Humer 1992年 オーストリア 19930243
87分

4人のオーストリア人の元ナチスが、自分の体験と現在の世界観を語る。彼らは医師や弁護士などエリートたちであるが、反ユダヤ主義を今でも支持し、自分たちの行為について全く反省していない。ヒトラーをいまだに礼賛する者さえいる。ユダヤ人やロマに対する差別的意見を公然と語り、ロマに不妊手術を施したのを肯定している。さらに絶滅収容所の存在を相変わらず否認している。オーストリアはナチスの犠牲者ではなく、共犯者であることが印象づけられる。

A-2 「殺害による治癒」 Healing by Killing 監督：Nipui Beheneg 1996年 イスラエル
19970344 90分

トブレリンカとアウシュヴィッツで人体実験や安楽死を実施した医師たちがどのような医学教育を受けたのか検証し、現代の医学生とともに医学倫理について論じる。

A-3 「ヒトラーの手下：シーラッハ - 若者を汚した者」 Hitler's Henchmen - Schiracha, the
Corruptor of Youth 監督：Peter Hart/ Ricarda Schlosshan 1998年 ドイツ 19990430 53分

シーラッハはたいがいのナチス指導者と違って、名門貴族の出身で教養人でもあったが、第一次世界大戦の前線での経験から、戦後ヒトラーに心酔し、ヒトラーユーゲントの指導者になる。若者たちに、ヒトラーへの絶対的忠誠と国家への奉仕の精神をたたき込む。彼が作り上げた組織にヒムラーや国防軍が目を付け、武装SSや軍隊兵士の供給源になっていった。しかし、戦争が進むとシーラッハとナチス体制の間に隙間が生じるようになる。シーラッハ夫人はユダヤ人迫害を座視できなくなり、またシーラッハも敗勢が濃くなり、少年たちが捨て石になることに疑問を抱くようになる。戦後のニュルンベルク裁判では、ついに自分の責任を認めるに至る。

A-4 「スペシャリスト」 The Specialist 監督：Eyal Sivan 1998年 フランス 19900496 123分
テルアビブでの「アイヒマン裁判」の記録。「スペシャリスト・自覚なき殺戮者」として日本でも公開された。

A-5 「死神博士の栄光と没落」 Mr. Death: The Rise and Fall of Fred A. Leuchter Jr. 監督：Errol
Morris 1999年 アメリカ 19990301 91分

自称・死刑装置の発明家であるロイヒターなる人物は、ホロコーストの実在性を否定し、珍妙な調査を繰り広げる。彼自身は単なる変人に過ぎないが、彼を利用する歴史修正主義の存在に注

意を喚起する。日本語字幕あり・貸出作品

A-6 「ブービと帝国へ帰る」 Back Home to the Reich with Bubi 監督：Stanislaw Mucha 2000年
ドイツ 20010049 79分

ドイツの名門貴族家アルフェンスレーベン出身のLudolf Hermann von Alvensleben(通称ブービ)は、快活で明るい男だったが、ナチス親衛隊の指導者としてポーランドで多数の殺害を指揮した。ブービの実行した犯罪の記録を追うとともに、いまでも結束の固い名門アルフェンスレーベン家内での、一族の負の歴史に対する受け止め方を記録している。

A-7 「かつて激流があった」 There was a wild Sprite 監督：Claudia von Aleman 2000年 ドイツ
20010772 43分

ドイツ・チューリンゲン地方の名家出身の監督が、19世紀以来軍人を輩出し、ナチス支持者ともなった祖先の歴史を追う。戦争体験者の親の世代は、負の歴史と向き合おうとしないことが明らかになる。

A-8 「アイヒマン - 秘密の覚書」 Eichmann-The Secret Memories 監督：Nissim Mossek/ Alan
Rosenthal 2002年 イスラエル 20030045 112分

1961年にアイヒマンが作成したメモワールを元に、彼がどのような人物であったか明らかにしている。子供時代からナチ党への入党後の活動について追う。特にユダヤ人政策への関与と、彼の自己認識を問題とする。

A-9 「ブラインド・スポット (盲点)：ヒトラーの秘書」 Blinde Spot: Hitler's Secretary 監督：
André Heller 2002年 オーストリア 20030789 90分

1942年から45年までヒトラーの秘書を務めたトラウドル・ユンゲ (Traudle Junge) の証言インタビュー (2001年撮影)。ヒトラーの秘書室は、政治や戦争について重大問題が扱われるような場所ではなく、権力の中心にありながら「盲点」のような場所であった。ヒトラーは柔和な家父長のように振る舞っていた。しかしソ連戦線での敗勢が明確になり、さらに1944年7月20日の軍部クーデタが起きると、徐々に緊迫するようになった。特に1945年4月にベルリン陥落が迫ると、ユンゲの証言は詳細になり、ヒトラー、エヴァ・ブラウン、ゲッベルス、ボルマン、シュベアーなどの動静が詳細に語られ、またゲーリングやヒムラーらの離反の状況も生々しく伝えられる。この証言が元になって、映画「ヒトラー：最期の12日間」が作成される。『私はヒトラーの秘書だった』(草思社文庫)の映画版。

A-10 「永遠の美」 Eternal Beauty 監督：Marcel Schwierin 2003年 ドイツ 20030604 90分

第一次世界大戦からナチス体制までに至るイメージ=観念を通じて、ドイツ人の心性の形成を追う。肉体や労働の賛美、国民の一体性、敵、死などについてのイメージの歴史を追う。

A-11 「灰色の事態」 Gray Matter 監督：Joe Berlinger 2004年 アメリカ/フランス 20050379
59分

ウィーンの精神病院には700人もの知的障がい児の脳標本が保管されていた。これは、ハインリヒ・グロース (Heinrich Gros) という医師が、戦時中ナチスに協力して殺害した子供たちの脳であった。驚くべきことに、グロースは、戦後ウィーンの社会民主党の支持者として政治的影響力を持ち、子供たちの脳を実験材料にして研究成果を公表し続けていた。ようやくオーストリアやイスラエルの医師、ジャーナリストが調査を開始する。子供たちの脳の埋葬が執り行われ、オーストリア大統領やウィーン市長も過ちを認める。しかしグロースは、2度の裁判で起訴されずに終わった。

A-12 「ノイバッハー計画の終焉」 The End of the Neubacher Project 監督：Marcus J. Carney
2006年 オーストリア/オランダ 20070477 74分

監督の母の実家であるオーストリアのノイバッハー家は、狩猟を愛し、軍人を輩出する保守的一族である。いまでも結束は固いが、ナチスに加担した一族の歴史に向き合おうとしない。親族たちに対して、批判的視線によって、その歴史を追う。

A-13 「名もなき兵士」 The unknown Soldier 監督：Michael Verhoeven 2006年 ドイツ/ウクライナ/アメリカ 20070508 97分

ユダヤ人に対する民族絶滅政策はナチス親衛隊の行為であって、国防軍は直接の責任を持たないというのがドイツ人の一般的イメージであるが、本作品は国防軍による戦場での犯罪行為を明らかにしている。

A-14 「家と祖国の間で:心の中のある町」Between Home and Homeland; One Town in my Heart 監督：
Lilach Naishtat Bornstein/ Hans Peter Lübke 2012年 イスラエル/ドイツ 20130920 30分

1927年生まれのカーラ (Karla) は現在イスラエルに居住するが、ドイツのレムゴ市 (Lemgo) で生まれ、テレジエンシュタット、アウシュヴィッツ収容所に収容されながら、生き延びることができた。イスラエル生まれの子供たちには、自分のドイツでの体験を語らないでいる。しかし1985年にレムゴ市在住の女性から手紙を受け取り、ドイツでの体験を語ってくれと頼まれる。現在は市長も彼女との交流に積極的で、ユダヤ系住民の歴史を紹介する博物館を創設し、地元の高等学校にまでカーラの名前が付く。市長は、戦後生まれの自分たちの責任を語る。

A-15 「品のある人間」 The Decent One 監督：Vanessa Lapa 2014年 イスラエル / オーストリア / ドイツ 20150149 96分

親衛隊指導者ヒムラーの生涯を、妻マルガレーテの視点から追う。民族絶滅政策の最大の責任者であった夫を「人間の品」を大事にする人だとして、戦後も彼の責任を認めようとしなかった。

B 占領と抵抗

B-1 「1944年ワルシャワ蜂起」 Warsaw Uprising 監督：Krzysztof Lang 1994年 ポーランド 19950134 75分

1944年7月に始まったワルシュワ蜂起の歴史。7月5日にホロコムスキ将軍たちを中心に決起し、8月1日から戦闘が開始される。イギリス軍が空輸で支援するが、食料は不足し市民は飢える。ソ連軍はワルシャワに迫るが、進軍方向を変える。蜂起軍は徐々に追い詰められ、下水道を通じて逃走を試みる。反乱は63日続いたが、ついにホロコムスキ将軍は降伏した。

B-2 「闘士」 Fighter 監督：Amir Bar-Lev 1999年 アメリカ 20010511 86分

Jan Wiener と Arnost Lustig はチェコ出身のユダヤ人で、ともに大学教授である。二人は、1978年にアメリカで知り合う。Wiener は戦時中、ユーゴスラビアからイタリアへと逃亡し、イギリス軍に参加してドイツ軍と戦った。戦後チェコに戻るが、社会主義政権に弾圧され、国を離れる。これに対して Lustig はアウシュヴィッツを生き抜き、戦後チェコで暮らし、一時社会主義を支持した経験を持つ。二人は、第二次世界大戦時の思い出を語るとともに、Wiener の逃亡と戦いの道筋をいまいちど旅する。

B-3 「アンゲロスのフィルム」 Angelos' Film 監督：Forgacs Peter 2000年 オランダ 20010213 60分

アンゲロス は身の危険を顧みず、ドイツ占領下のギリシャ社会と自分の家族を撮影した。彼の残した映像を再編集する。1940年にギリシャはイタリアから侵略されるが撃退に成功する。翌年アンゲロスは結婚する。1941年4月にはドイツが侵略し、その占領下におかれる。1941/42年の冬には多くの餓死者を出す。43年には抵抗運動が激しくなる。また北ギリシャを占領したブルガリア軍への抵抗運動も始まった。レジスタンスの死者の葬式やストライキの風景が撮影される。イタリア占領地域の統治はルーズであったが、イタリア敗戦後にはそこもドイツ軍が進駐し苛酷な弾圧を行うようになる。レジスタンスの公開処刑も行われる。ようやく1944年10月にはドイツ軍が撤退し、イギリス軍によって解放される。しかし共産主義者の蜂起によって内戦が始まった。映像の中には彼の家族生活の風景も挿入される。

B-4 「関係者の方々へ」 To Whom it may concern 監督：Barbara Hano 2002年 オランダ
20030272 68分

オランダ人老婦人は熱心なカトリック教徒の家族で育つ。兄のアルフォンス（Alfons）は戦争中抵抗運動に参加して逮捕され、1945年1月22日に死去した。兄はバードウォッチャーで、観察記録を細かくつけていたが、1944年1月に記録は途絶える。この頃彼は頻繁に夜に外出するようになり、母は心配していた。1944年2月22日に逮捕された。外光の入らない監獄に父母は訪ね、兄からも手紙で監獄での生活ぶりが当初は伝えられた。しかし9月にドイツのノイエンガメ（Neuengamme）の強制収容所に送られる。母は絶望する。その後赤十字から死亡記録が届くが、どのような状況で死んだのか全く知らされなかった。

B-5 「議論を呼ぶ歴史」 Controversial History 監督：Inara Kolmane 2010年 ラトビア
20110649 65分

ラトビアはソ連に占領された後、ドイツに支配される。3人のラトビア出身の老人たちが、第二次世界大戦時の記憶を語る。3人はユダヤ人、ラトビア人、ロシア人（ベラルーシ人？）である。しかし3人の体験は大きく異なり、共通点を持たない。ユダヤ人迫害を生き延び、戦後アメリカで化学者として成功した Edward Anders を軸に、他の二人の老人の証言も交える。世界大戦に関する国民的記憶を形成するのが困難なラトビアの現状が映し出される。

B-6 「託される」 The Commitment 監督：Michèle Massé 2010年 フランス/イスラエル
20110109 51分

1992年に本作の監督に母のジョセフィーヌから電話がある。自分が死んだ後のことを頼まれ、戦争中の記録を託される。ジョセフィーヌは戦争中女学生であったが、1941年にリトアニアから Pearl というユダヤ人女性が亡命し、同級生となった。二人は互いに惹かれあう。フランスがドイツに占領されると、ジョセフィーヌはユダヤ人でないにもかかわらず、連帯の証として自分も「ユダヤの星」を付け、逮捕される。釈放後、レジスタンスに参加し、ジョセフィーヌの家族も Pearl をかくまって互いに戦争を生き延びることができた。

B-7 「絶滅の歴史」 The Chronicle of an Extermination 監督：Chryssa Tzelepi Kersagnidis 2013年
ギリシャ 20131442 91分

ホルティアディス村の悲劇の歴史。1944年9月に、ギリシャはドイツ軍に占領され、パルチザンが抵抗運動を始める。村の女性や子供たちは、パン屋の建物に集められ、集団虐殺される。村で生き残ったのは、たった13人であった。

B-8 「より近くに」 Coming Closer 監督：Michal Nekanda-Trepka 2013年 20150733 ポーランド

ド 44分

1944年のワルシャワ蜂起を撮影した写真を使い、ワルシャワ市民軍の動向と、ドイツ軍兵士の体験を再構成する。

C ホロコーストの体験と記憶

C-1 「ロッツ・ゲッター」 Lodz Ghetto 監督：Alan Adelson/ Kathryn Tarerna 1988年 アメリカ
19890028 103分

1941年から1944年のロッツ・ゲッター（＝ウーチ・ゲッター）閉鎖までの詳細な記録を追う。ワルシャワ・ゲッターとともにロッツ・ゲッターは大規模ゲッターで、8万人もが居住していた。ワルシャワ・ゲッターが激しい抵抗運動をしたのに対し、ロッツ・ゲッターはルムコフスキを指導者とするユダヤ人自治組織が、親衛隊の代理として厳しく統治していた。ユダヤ人はわずかな食糧配給を得ながら、軍需産業に奉仕した。しかし労働力としてみなせない子供たちは選別され、絶滅収容所に送られ、その後大人たちも次々と送り出され、ついにはルムコフスキまで絶滅収容所送りを免れなかった。日本語字幕あり・貸出作品

C-2 「証言」 Testimony 監督：Sandra Wentworth Bradley 1993年 イギリス 19950262 79分

ユダヤ人迫害の開始から、絶滅収容所までの体験を生き延びることのできた30人のユダヤ人の体験をまとめる。様々な国や年齢、職業のユダヤ人の体験が語られる。

C-3 「選択と運命」 Choice and Destiny 監督：Tsi Reisenbach 1993年 イスラエル 19950188
〔YIDFF1995最優秀賞〕 118分

イスラエルに住む監督の父母の日常生活を追う。老父はビルケナウ、アウシュヴィッツ、マウトハウゼンといった絶滅収容所を生き延びることができた。そのたびに、ガス室への「選別」を免れ、労務者として働くことで、戦後まで生き延びた。日本語字幕あり・貸出作品

C-4 「ワルシャワ・ゲッター蜂起：マレク・エデルマンによる記録」 The Warsaw Ghettos Uprising.
Chronicle according to Marek Edelman 監督：Jolita Dylewska 1993年 ポーランド 19950129
70分

1942年4月に、ワルシャワ・ゲッターに集められたユダヤ人は蜂起する。それはちょうどゲッターが閉鎖され、絶滅収容所に移送される時期に当たった。親衛隊やエストニア人警察に取り囲まれ、バリケードを作って抵抗した。ゲッターには火がかけられ、逮捕されたユダヤ人はトレ布林カの絶滅収容所に送られた。一部の者は下水道に逃げ込み逃亡を図る。マレク・エデルマン (Marek Edelman) の証言は、1942年4月19日から5月9日までの間の一日一日、参加者一人ひとりの行動や最期について、驚くほど詳細である。

C-5 「ロードス島よ永遠に」 Rhodes Forever 監督：Diane Perlsztejn 1995年 ベルギー
19970181 59分

ロードス島（ギリシャ）のユダヤ人コミュニティの受難の歴史。イタリアのファシスト政権が、島を占領すると、ユダヤ人学校が閉鎖され、差別が始まる。それを逃れてアフリカやパレスチナへの移住者が増える。1944年にムッソリーニが降伏した後、ナチス・ドイツが島を占領すると、1800人のユダヤ人はアウシュヴィッツやベルゲン・ベルゼンの収容所に送られ、戻ってこなかった。それでも戦後アフリカから帰国するユダヤ人もあり、ロードス島に残ったユダヤ人たちはコミュニティのために記念碑を建設した。

C-6 「シュテットル」 Shtetl 監督：Marian Marzynski 1996年 アメリカ 19970183 173分

ポーランドのブランスク市では第二次世界大戦以前、人口の6割はユダヤ人であった。こうしたユダヤ人の都市的コミュニティを「シュテットル」と呼んだ。これらのユダヤ人はホロコーストの犠牲になるか、あるいはアメリカやイスラエルに移住し、いまでは、コミュニティは完全に失われている。この作品は戦前のユダヤ人コミュニティの歴史を掘り起こすとともに、迫害された際、ナチスとともにそれに加担したポーランド人や、逆に彼らを森の中にかくまった住民についても、証言を集める。本作と、エヴァ・ホフマン『シュテットル：ポーランド・ユダヤ人の世界』（みすず書房）は密接な共同関係にある。

C-7 「テレジエンシュタットは温泉リゾートのようだった」 Theresienstadt looks like a Spa Resort
監督：Nadja Seelich/ Bernd Neuburger 1997年 オーストリア 19990292 50分

Josefa Stibitzova という女性は、ボヘミア（チェコ）のKolin という町の住人だったが、1942年に62歳で、テレジエンシュタットの強制収容所に送られる。この収容所は絶滅収容所ではなく、強制労働キャンプであったが、労働能力がないとみなされると、容赦なくアウシュヴィッツに送られた。彼女は労働能力に優れ、アウシュヴィッツに送られる危険を何度もくぐり抜け、生き抜いた。表題「テレジエンシュタットは温泉リゾートのようだった」は、故郷の子供たちに無事を知らせる葉書の一節である。死を免れたとはいえ、過酷な労働条件で、一緒に収容所に送られた2000人の同郷人のうち、帰還できたのは19人だった。1948年に録音された彼女の証言を中心に構成される。

C-8 「フォトグラファー」 Photographer 監督：Dariusz Jablonski 1998年 ポーランド 19990064
75分

第二次世界大戦中、ドイツの軍需企業 IG Farben AGFA で働いていたアマチュアカメラマンのヴァルター・ゲーネヴァイセン（Walter Genewaisen）は、ロッツ・ゲッター（ウーチ・ゲッター）の大量の写真を残していた。それらを再構成し、ゲッターの悲惨な実情と歴史を追う。

C-9 「アウシュヴィッツー最後の目撃者」 The Auschwitz-The Final Witness 監督：Andrew Barron
1999年 イギリス 20010008 56分

ギリシャ出身のユダヤ人の若者3人は、アウシュヴィッツで労働者として働かされ、生き延びた。3人の体験についての映画。彼らはギリシャのテサロニキ出身である。1941年にドイツがギリシャを占領すると、1944年に彼らの家族は全員アウシュヴィッツに移送され、彼ら以外は誰も帰ってこなかった。彼らはゾンダーコマンドに選ばれ、髪を刈り死体を運ぶ仕事をさせられた。3人は10ヶ月間焼却施設で働かされた。彼らはさらにビルケナウでも働くことになる。ガス室でのユダヤ人たちの最後について証言する。

C-10 「ユダヤ人のこども達」 The Children of the Jews 監督：Vicki Shiran 1999年 イスラエル
20010172 52分

博物館に収蔵される画像と映像資料によって、戦前戦中のユダヤ人のこども達の生活の激変を再現する。ナチスの支配が及ぶ前の幸福な時代のユダヤ人の子供の様子を再現する。続いてナチス支配初期の差別下の生活、さらにはゲットーでの窮乏状態、そして絶滅収容所での悲劇が、画像資料などによって語られる。

C-11 「トレブリンカを生き延びて」 Despite Treblinka: the Last Survivor 監督：Gerald Stawsky
2002年 ウルグアイ 20030121 96分

ウルグアイに居住する2人のユダヤ人老人は、ポーランド出身でトレブリンカ絶滅収容所の生き残りである。しかも彼らは1943年のトレブリンカ蜂起の参加者だった。彼らは最初ワルシャワ・ゲットーに収容された。ゲットーのユダヤ人評議会の役割や、家族たちとの最後の別れについて語られた後、トレブリンカ収容所における体験、とくに1943年8月2日のトレブリンカ収容所で起きた蜂起が語られる。収容所の外に逃亡できたのは2グループ20人だけであったが、このうち1グループは全滅した。ほかにワルシャワ・ゲットーの蜂起の際に生き残ることのできた女性の証言も収録されている。

C-12 「ディヴァン」 Divan 監督：Pearl Gluck 2003年 アメリカ/ハンガリー 20030399 80分

主人公は1972年に生まれ、ニューヨークのブルックリンで育った。生家はハンガリー出身の厳格なハシド派ユダヤ教徒である。厳格なユダヤ教の規律にはついていけず自由な生き方を望むが、しかしユダヤ人の伝統文化にも惹かれている。女性が家庭に専念するというハシド派の考え方にはついていけないが、しかしユダヤ人家庭の中心に置かれるディヴァンと呼ばれる長椅子には惹かれている。彼女は父親の出身地ハンガリーの親族を訪ねる。父親の親族は従兄弟がいるだけで、ユダヤ人がイディッシュ語を使っていた Rohod という町は壊滅し、ジナゴグももうない。彼女

はハンガリーのユダヤ社会を探し求める。もはや厳格なユダヤ人社会に戻りたいとは思わないが、ユダヤ人文化を貴重なものと思う。最後にブダペストでディヴァンを購入する。

C-13 「森の外へ」 Out of the Forest 監督：Limor Pinhasov / Ben Yosef 2003年 イスラエル
20050259 90分

リトアニアの Ponar という寒村の住民 K.Sackwichz は、1941年から44年に、近くの森の中でくり返し行われたユダヤ人の集団銃殺の記録を残していた。それはドイツの親衛隊が直接、手を下すのではなく、リトアニア人の警察ばかりか、住民も深く関わっていた。Sackwichz の日記によって歴史を再構成するとともに、現在のリトアニア人たちが、自分たちの過去の犯罪的歴史に向き合おうとしない現状を捉える。

C-14 「アウシュヴィッツから来た少女」 The Girl from Auschwitz 監督：Stafan Jarl 2005年 スウェーデン 20071385 76分

Cordellia Edvardson はスウェーデンのジャーナリストで、パレスチナのイスラエル占領について取材をしている。彼女はアウシュヴィッツ絶滅収容所に収容された経験を持つ。テレージェンシュタットからアウシュヴィッツに送られた。アウシュヴィッツでは一人の女性が彼女の面倒を見てくれ、彼女のおかげでガス室送りになることを免れた。アウシュヴィッツの撤収後はデンマークの収容所に送られ、そこで解放された。戦後はスウェーデンで暮らし、スウェーデン語を身につけた。ジャーナリストになってイスラエルの支持者としてスウェーデン語の報道を行っていたが、パレスチナで起きているイスラエル占領の不正を見逃せなくなる。弾圧されているパレスチナ人の状況をスウェーデン語で報道する毎日である。

C-15 「バルティ地区のゲットー」 The Balty Ghetto 監督：Pavel Sting 2008年 ポーランド/チェコ 20091785 88分

ポーランドのロツ・ゲットーのバルティ区には、チェコから送られたユダヤ人も居住した。チェコのユダヤ人はドイツ・ユダヤ人と同じく、ユダヤ教信仰も薄く、西欧化していた。ロツ・ゲットーに到着し、その悲惨な状況にショックを受けるとともに、自分たちとは異なるポーランドの東方ユダヤ人との共存も簡単ではなかった。ユダヤ人自治組織のルムコフスキの独裁的方针も不快なものであった。子供を選別して絶滅収容所に送り出すという彼の方針に抵抗し、子供を壁の中にかくまい、なんとか生き延びようとした記録。

C-16 「ゲルダの沈黙」 Gerda'Silence 監督：Britta Wauer 2008年 ドイツ 20090689 88分

ゲルダはニューヨークのユダヤ人街に居住するが、ベルリン出身であった。ベルリンではゲルダたちユダヤ人家族は、戦前、アパートのドイツ人とも仲良く暮らしていた。しかし1939年に両

親はポーランドに送られ、永遠に別れた。自分も危うくアウシュヴィッツに送られそうになるが、隣人たちがかくまってくれた。しかし誰か（ゲシュタポと通じていたユダヤ人ではないか？）に密告され、1944年にアウシュヴィッツに送られる。彼女は当時妊娠していたが収容所医師メンゲレが、乳児が栄養なしでどれだけ生きるのか実験するという理由で、生き残ることができた。子供は生後2週間で死亡する。ゲルダは、1947年にアメリカに渡るが、東ベルリン市民となったかつてのドイツ人隣人をしばしば訪問した。アメリカで生まれた息子には、ドイツ人に親密な感情を持つゲルダの気持ちが全く理解できない。このためゲルダは、自分の体験を、東ベルリン市民であった Knut には打ち明けるが、息子とはなかなか語り合えない。

C-17 「忘れられた移送：ポーランドへ」 Forgotten Transport:Poland 監督：Lukas Pribyl 2009年
チェコ 20091465 90分

チェコ出身のユダヤ人たちの中に、ポーランドのルブリンのゲッターに送られ、1943年にゲッターが閉鎖された後、絶滅収容所に送られた者たちがいた。生存者の老人の記憶をたどりながら、ゲッターでの強制労働や、絶滅収容所での体験、親衛隊指揮官の記憶を語る。

C-18 「中傷」 Defamation 監督：Joaf Shamir 2009年 イスラエル／デンマーク／オーストリア
／アメリカ 20091721 93分

イスラエルでは、高校生に対する反セム主義についての歴史教育の一環として、アウシュヴィッツでの修学旅行が組まれているが、モサドが同行する。ヨーロッパでの反セム主義を強調するばかりで、高校生のポーランド市民との交流はあまりうまくいっていない。一方アメリカのブルックリンのユダヤ市民も、黒人市民との間で衝突が絶えない。黒人たちはユダヤ人が経済界を牛耳っていることに反発を強めている。アメリカやイスラエルのユダヤ人知識人たちには、反セム主義を過剰に意識し、それを政治的に利用するイスラエルやユダヤ人の動向に危惧する者もいる。

C-19 「白いカラス」 The White Raven 監督：Carolyn Ott 2009年 ドイツ 20110445 82分

マックス・マンハイマー (Max Mannheimer) はユダヤ人作家・画家である。戦前チェコスロヴァキアで生まれ、チェコの併合後、ダッハウ、アウシュヴィッツ、ビルケナウの収容所で生き抜いた。その間、新婚の妻も含め、ほとんどの家族を失った。戦後の解放後、2度とドイツの地を踏みまいと思っていたが、戦時中、抵抗運動を続けていた社会民主主義者の女性と恋に落ち、ドイツに居住した。戦時中の体験については沈黙を守っていたが、現在は若者たちに積極的にナチス下でのユダヤ人の運命について語っている。

C-20「友情の力」The Power of Friendship 監督：Wand Rozycka-Zborowska 2010年 ポーランド
20111169 62分

ポーランドの町 Stupka には多くのユダヤ人が居住していた。それぞれ13歳であったユダヤ人少女ダスタ・ローゼンタルと、ポーランド少女グラジナ・ハルマチンスカは1940年から42年にかけて手紙を交換しあう。1942年に全てのユダヤ人がいなくなるまで、二人の手紙のやりとりは続いたが、42年3月25日が最後となる。ドイツ支配下での二人の友情の記録。

C-21「数えられる」Numbered 監督 Uriel Sinai/ Dana Doron 2012年 イスラエル 20130254
55分

アウシュヴィッツの収容所に収容され、生き抜いた人々が、入れ墨された数字について語る。入れ墨されることは当面、死を免れたことを意味した。彼らは順番に、収容所での体験と戦後の人生について証言する。

C-22「避難所：自立ホームの物語」Refuge: Stories of the Selfhelphome 監督：Ethan Bensinger
2012年 アメリカ 20130406 60分

シカゴの「自立ホーム」の居住者たちは、戦争中アメリカに亡命した者やアウシュヴィッツを生き延びたユダヤ人老人である。彼らの様々な戦時中の体験が語られる。日本支配下の上海を通じて亡命した者、両親と別れてイギリスに送られ保護された者、テレジエンシュタットの収容所からアウシュヴィッツの絶滅収容所に送られた者などである。彼らは戦後、シカゴで自治組織を作り、老人たちの施設も設立した。戦後のユダヤ人コミュニティ創設のプロセスも語られる。

C-23「ビューロー06」Bureau 06 監督：Yoav Halevy 2013年 イスラエル 20130808 58分

イスラエル国家は意外にも建国当初はホロコーストについてあまり強い問題意識を持っていなかった。しかしアイヒマン裁判を契機に、ホロコーストに対して意識を高め、「ビューロー06」という調査機関を設置し、研究を始める。それとともにホロコーストの体験者から、情報を収集するようになった。アイヒマンの審問記録や、調査員が作成した記録がその中に含まれている。

D 弾圧と抵抗

D-1「ハルトハイム T-4」 T4-Hartheim 監督：A.Gruber/ J.Neuhauser 1988年 オーストリア
19890157 62分

ナチス・ドイツが、精神病患者や障がい者の殺害計画（T 4）を実行したのが、オーストリアにあった「ハルトハイム城」であった。T 4 計画に関わった医師と、障がい者の殺害実施状況を、当時の職員の日記を通じて再構成する。医師は戦後責任を問われることはなかった。ハルトハイムの殺害技術が、アウシュヴィッツにつながっていった。

D-2 「子供の国, 灰の国」 Kindersland ist abgebrannt 監督: Sibylle Tiedemann 1997年 ドイツ
19990289 90分

ウルム市(ドイツ)の女子学校は「白バラ運動」で知られるゾフィー・ショルが学んだ学校である。彼女の同級生たちが、在りし日のゾフィーとショル一家の思い出を語る。友人の中にはユダヤ人もおり、1935年にはニュルンベルク法で商売ができなくなり、ウルム市を去った者もいた。ゾフィーは戦争初期には孤児の支援を行っていたが、白バラ運動に参加し兄たちとともに処刑される。しかしウルム市の市民はショル兄妹にあまり同情的ではなかった現実が明らかにされる。

D-3 「アンドレの二つの人生」 Andre's Lives 監督: Brad Lichtenstein 1998年 アメリカ
19990347 55分

アンドレ・シュタイナー(89歳)はアメリカ合衆国ジョージア州で暮らしている。スロバキア出身のユダヤ人であり、戦前はBruno市の建築家だった。彼は5人のグループを結成し、ホロコーストからのユダヤ人救済に取り組む。グループの中で2名は捕えられてアウシュヴィッツに送られるが、アンドレと妻も含め3名は逃亡に成功する。アンドレは1978年にクロード・ランズマンからインタビューを受けている。今回は息子たちに自分の経験を語るとともに、逃亡中彼を匿ってくれた家族とも再会する。

D-4 「NO! レジスタンスの証言 第三帝国下の抵抗者の思い出」 No! Witness of the Resistance in Munich 1933-1945 監督: Katrin Seybold 1998年 ドイツ 19990445 54分

ミュンヘンはナチス党発祥の地であるとともに、白バラ運動の活動の舞台であった。ナチス独裁下で、様々な抵抗運動が展開された。しかしその多くの人々は、強制収容所や刑務所で命を落とし、忘れ去られつつある。それらを掘り起こす試み。共産主義者、社会民主党員、カトリック抵抗運動、ユダヤ人、白バラ運動への参加者、修道女、様々な抵抗者の記録が掘り起こされる。

D-5 「無言の目撃者」 Deaf Witnesses, Silent Witnesses 監督: Brigitt Lemaire/ Stehane Gatti 2000年 フランス 20010656 52分

ナチス政権は1933年の「断種法」において聴覚障害者も対象にしていた。聴覚障害の女性は子供の頃、強制的に手術を受けた。15000人から20000人が手術され、子供の場合、親の許可も得ずに手術されていた。ベルリン・シャルロッテンブルクにT4の施設があった。手術を行った医師たちは戦後も罪を問われていない。

D-6 「刑法175条」 Paragraph 175 監督: Rob Epstein/ Jeffrey Friedman 1999年 アメリカ
20010505 81分

同性愛者から市民権を奪う刑法175条は、既に19世紀末に制定された法律で、西独では1960年

代まで、東独でも1970年代まで効力を持っていたが、時代によってその実効性には差があった。ワイマール共和国時代の1920年代には、ほとんどこの法律は顧慮されることがなく、ベルリンは同性愛者にとって「楽園」のような都市であった。20世紀初めに生まれ、この時代を経験した同性愛者の人々は、ナチス体制下で強制収容所に収容され、筆舌し難い屈辱の経験を強いられた。わずかに残った人物が、インタビューに対して重い口を開く。歴史家クラウス・ミュラーのインタビューを契機に、「ホロコースト博物館」も同性愛者の展示を始めた。日本語字幕あり・貸出作品

D-7 「オラドゥール村からの少女」 The Girl from Oradour 監督：Ib Makwarth 2000年 デンマーク 20010819 23分

1944年に親衛隊によって、抵抗運動（マキ）に関わっているとみなされ、村ごと集団虐殺されたオラドゥール村（フランス）での事件をたどる。現在の村の様子と、1944年6月に起きた集団虐殺の経緯を再現する。

D-8 「ブラックリスト」 Blacklist 監督：Agota Varga 2002年 ハンガリー 20030898 70分

ハンガリーのロマ（ジプシー）たちの第二次世界大戦中の過酷な運命についての記録。ロマたちは名簿を作成され、そのリストに従い男はRahoの強制労働（ルーマニア）に動員され、女たちはユダヤ人のゲットーに送られた。ロマたちの記憶とハンガリー人憲兵の自己弁護的証言を対比的に描く。

D-9 「クラルスフェルド家」 The Klarsfelds 監督：Elizabeth Citroën 2002年 フランス 20030171 52分

ベアテ・クラルスフェルド（Beate Klarsfeld）はベルリンに育ち、ナチ党員の経歴のあるキージンガーの政権に強く反対した経験を持つ。1960年代にパリに移住し、ユダヤ人のセルゲ・クラルスフェルド（Serge Klarsfeld）と知り合い結婚した。セルゲの父は家族を隠したが、自分はゲシュタポに捕まり帰ってこなかった。セルゲとベアテはかつてのナチスを探し出す運動を始めた。フランスで活動した親衛隊の幹部を何人も見つけ出し、裁判にかけていった。子供たちも両親の運動に協力する。ナチハンターとしての彼らの活動を紹介する。

D-10 「ガド・ベック物語」 The Story of Gad Beck 監督：Carsten Does/ Robin Cachet 2006年 ドイツ 20070954 100分

1923年生まれのガド・ベックは母方を通じてユダヤ人の系譜を継いでおり、加えて同性愛者であった。叔父がガド・ベックと友人のマンフレッド・レヴィンを匿ってくれたが、マンフレッドの家族は絶滅収容所に送られる。マンフレッドも家族と運命をともにするため、ガド・ベックの

もとを去る。1943年にガド・バックはバルリン・ローゼンシュトラーセ (Rosenstrasse) に送られるが、ドイツ人女性達が夫や子供を返せと運動し、彼も絶滅収容所送りを免れる。その後、地下活動でユダヤ人救済に取り組んだ。ちなみにガド・バックは「刑法175条」にも登場する。

D-11 「逃亡」 The Runaway 監督：Marek Tomasz Pawlwoski 2006年 ポーランド 20071293 56分

ポーランド人の Piechowski は戦前にボーイスカウトの活動に熱中していたが、第二次大戦が開戦すると、ナチスから逃れるためフランスに亡命しようとするが、アウシュヴィッツに送られてしまう。収容所では「ゾンダーコマンド」として飢餓の中で働かされた。仲間たちと逃亡を計画し、SSの制服を盗みだし、1944年6月に脱走に成功する。戦争中はウクライナでパルチザンに参加した。戦後はポーランドの共産主義政権になじめず、10年間も刑務所暮らしを強いられる。造船所で働き、「連帯」の運動にも加わった。冷戦終了後、ようやく自由に生きられるようになって経済的にも成功した。

D-12 「共謀者-ポーランド・レジスタンスの女性たち」 Conspirator-Polish Heroines in Resistance 1939 監督：Paul Meyer 2006年 ドイツ 20070311 90分

抵抗運動に参加したポーランドの女性の証言記録。ポーランド女性も軍事蜂起に参加した。中にはドイツ軍に捕まり強制収容所送りになった者もいる。また女性だけの軍団もあった。ドイツ占領下で抵抗の秘密組織を作りつつ、日常生活を送る。数百万人が抵抗運動に加わった。多くの反抗グループも徐々に組織化され、団体間で調整されるようになる。そしてこの組織の連絡網を少女たちが担った。さらに女性たちが男と対等の地位で抵抗軍に加わった。彼女たちも地下水道で戦い続けた。1944年にワルシャワ蜂起軍は降伏し、彼女たちも強制収容所に送られた。戦後同盟軍 (英米) の裏切りで、ポーランドはソ連に占領され、多くの友人たちが亡命した。

D-13 「マッチは幸いなり：ハンナ・セネシュの生と死」 Blessed in the Match; The Life and Death of Hannah Senesch 監督：Roberta Grossmann 2008年 アメリカ 20090477 86分

ハンガリー出身のユダヤ人女性ハンナ・セネシュ (Hannah Senesch) の人生を描く。彼女はブダペストのユダヤ人中流階級で育った。ブダペストにはユダヤ人コミュニティがあった。ユダヤ人としての自己認識を育み、ユダヤ人国家の創設を志向するようになる。1939年に第二次世界大戦が始まるとパレスチナに移住し、農業に携わったが、母はハンガリーに残った。ホロコーストが行われているのを知ると、1944年にユーゴスラビアからハンガリーに潜入して、母を救い出そうとする。結局ハンナはハンガリー警察にとらわれ、11月には処刑されてしまった。母は生き延び、戦後パレスチナに移住する。

D-14「戦時の兄弟」 Brothers at War 監督：Oystein Rakkenes 2010年 ノルウェイ 20110681
54分

ノルウェイ人の老齢の兄弟が互いの戦時の経験を語り合う。弟はイギリスのためにスパイ活動をはじめ。フィンランドでフィンランド、スウェーデン、ノルウェイのスパイと接触し、ノルウェイに帰国した後、1941年7月に逮捕され、死刑判決を科される。兄が前線に立てば死刑が免除されると聞き、兄はフランス戦線に送られる。兄は戦場での経験を、弟は収容所での経験を語り合う。どちらも地獄のような様相である。戦後、1945年11月に兄は戦犯に問われるが、無罪となった。当時他には選択はなかったと、振り返る。

D-15「好ましくない者」 The Undesirables 監督：Chiara Cremaschi 2010年 イタリア
20110071 52分

フランスのリュークロ (Rieucros) に、反ファシズムの活動に加わった女性専用の強制収容所が1939年にできる。そこには、イタリア人、スペイン人、フランス人、ドイツ人などが収容された。コミュニケーションには苦勞したが、互いの言語を教えあい、公衆衛生や健康に気遣い、食事や育児を協力し、手芸なども教えあった。しかし1940年に事態が一変する。ユダヤ人は他の収容所に送られ、イタリア人やスペイン人は、ファシズムの母国に送還される危険が迫った。

D-16「料金所」 Toll Station 監督：Vincent Pascual/ Luis Garcia 2011年 スペイン 20130164 58
分

オーストリアにあったマウトハウゼン強制収容所は、ナチス体制に従おうとしなかった者たちが、収容され過酷な扱いを受けたが、その中にはスペイン市民戦争で共和派として闘い、フランスに亡命したスペイン人も含まれていた。こうした体験を持つ二人の老人が、マウトハウゼンに訪れたスペインの若者に、自分たちの体験を語る。

D-17「カーブで」 In the Curve 監督：Gabriele Hochleitner/ Timothy Macleish 2014年 オースト
リア 20150102 120分

オーストリアの山岳地方にあるゴールデック村 (Goldegg) に1944年、脱走兵が逃げ込んだ。彼らは徴兵命令に応じず、山岳地方に逃げ込んでいた。親衛隊は村を急襲し、その時ホッホライター家の兄妹の長兄と次兄は命を失う。彼らの妹のリースル (Liesl) は脱走兵のルピッチ (Rupitsch) と恋に陥っており、妊娠していた。彼女も戦争中メクレンブルクの強制収容所に送られ、戦後、再婚した。しかし結婚した相手は、ルピッチとの間にできた息子に厳しく、彼は1962年に自殺してしまう。現在、生存している年下の兄弟たちが父母や兄、姉、甥の悲劇を語る。

E 難民・亡命・支援

E-1 「マルセイユのヴァリアン・フライ」 Varian Fry in Marseille 監督：Jörg Bundschuh 1987年
西ドイツ 19890165 89分

ビシー政権下にあったフランスのマルセイユで、ヴァリアン・フライ（緊急援助委員長）が、アメリカ領事のバリー・ビンガムと協力して、反ナチ運動家200人以上にビザを発給した。その活動に関わった人々の回想。

E-2 「精神の武器」 Weapons of the Spirit 監督：Pierre Sauvage 1989年 アメリカ/フランス
19890098 90分

ル・シャンボン（Le Chambon）はわずか5000人のフランスの小村であるが、戦争中人口に匹敵する5000人ものユダヤ人を匿い続けた。この村はビシー政権支配下の山岳地帯にあり、かつて祖先たちはユグノー教徒として弾圧された歴史を持つ。戦時中に牧師は、ドイツに対して協力的なビシー政権を批判し、村人の共感を得ていた。こうした共感には村内の少数派カトリック教徒も共有した。村人は一体となってユダヤ人避難民を保護した。日本語字幕あり・貸出作品

E-3 「ラウル・ワレンベルクの任務」 The Mission of Raoul Wallenberg 監督：Alexander
Rodnyansky 1990年 ソ連/西ドイツ 19910015 70分

ハンガリーのユダヤ人は、絶滅政策の最後の犠牲者であったが、そのギリギリの段階においてスウェーデンのブタペスト駐在大使のワレンベルクは、ビザの発給によって多くのユダヤ人を救い出した。しかしソ連の占領下で1947年に突然消息を絶つ。彼のブタペストでの活動を、多くの証言によって再構成する。

E-4 「膝ががくがくしていたーキンダートランスポートの思い出」 My Knees Were Jumping:
Remembering the Kindertransports 監督：Mellissa Hacker 1995年 アメリカ 19970109 76
分

監督の母親はナチス統治下のオーストリアからイギリスに送られた。アメリカがユダヤ人救出を始めるのは、ユダヤ人の子供たちをイギリスが政策的に迎え入れた後である。このイギリスの政策によって救われたユダヤ人の子供たちの運命についての記録。

E-5 「杉原とその他の人々」 Sugihara and Others 監督：A.Milosz 1997年 ポーランド
19970318 53分

ポーランド語映画であるが、英語字幕はない。杉原千畝が発給したビザで生き延びた老人たちが思い出を語る。ビザ取得後、リトアニアからモスクワ、ウラジオストックを経て日本に辿り着

いたユダヤ人たちは、さらに東京、神戸を経て上海に到着した。

E-6 「救われた者たち」 The Saved 監督：Oeke Hoogendijk/ Paul Cohen 1998年 オランダ
19990102 90分

オランダ人行政官フレデリック (Frederick) は、できるだけ多くのユダヤ人を救い出そうと試みた。彼は技術者や学者、専門職を持つ者のリストを作成し、これらの人々を絶滅収容所送りになることからなんとか防ごうとした。多くのユダヤ人が自分や家族を名簿に乗せてくれるように懇願し、フレデリックもこれに応えようと努力した。名簿に掲載された者たちは、Barneveldの施設に収容された。自由やプライバシーはなかったが、若い男女の間で恋愛関係が生まれ、後に夫婦になった者もある。終戦直前にレジエンシュタットからアウシュヴィッツに移送されたが、かろうじて生き延びた。Barneveldに収容された人々は幸運だった。

E-7 「シャバヌヌの子供たち」 The Children of Chabannes 監督：Dean Wetherell/ Lisa Gossels
1999年 アメリカ 19990254 91分

ビシー政権下で村ぐるみでユダヤ人の子供たちを守り通そうとしたシャバヌヌ村 (Chabannes) の試みを描く。ドイツ、オーストリア、ポーランドから400人ものユダヤ人の子供たちを村は匿った。両親を殺害された子供たちを、抵抗グループの人々は救済しようとした。またパリでも反ユダヤ主義的な雰囲気があったが、シャバヌヌはこれらとは無縁であった。ビシー政権はユダヤ人たちを収容所に送ろうとしたが、村人や学校教師たちは必死で子供を守り通そうとし、森に隠したり、レジスタンスの協力でパスポートを入手し、亡命させようと試みた。

E-8 「リヴェサルト日記」 Journal de Rivesaltes 1941-42 監督：Jacqueline Veuve 制作年不明 スイス
19990251 77分

フランスのリヴェサルトにはナチス占領下のフランスやスペインからユダヤ人やロマの子供たちが送られてくる。親を失った子供たちがバラックで暮らし、スイス人の若いボランティアが支援する。スイス人の若いナースの日記を中心に、映画を構成する。親たちはアウシュヴィッツへ送られた。子供たちも劣悪な生活環境で、親から切り離されて暮らす。

E-9 「杉原：善意の陰謀」 Sugihara: Conspiracy of Kindness 監督：Robert Kirk 2000 アメリカ
20010104 102分

杉原千畝の生涯と活動を記録する。駐在リトアニア公使の杉原は、政府から許可を得ることなく、ユダヤ人のためにビザを発給した。その行為によって何の利益も報酬も得ることはなかった。杉原は士族出身で、早稲田大学で英文学を学んだが、その後ロシア語を学ぶ。ヒトラー政権の弾圧から逃れるユダヤ人の技術力を、日本政府は満州建設にいかそうとするが、杉原も外務省職員

としてロシア専門家として活動する。しかし日本の中国政策に失望し、外務省を辞任し帰国する。杉原は結婚後、リトアニアのカウナスへ外交官として派遣される。そこでポーランドからリトアニアに逃れたユダヤ人難民の状況に関心を持つようになる。ユダヤ人たちはカリブ海のオランダ領への亡命を目指す、それまでの間のトランジットビザが必要になる。杉原は公使としてビザを発行しようとするが、外務省からは許可が得られない。彼は公使としての最後の日々、ビザを発給し続ける。彼は離任のためベルリンに旅立つが、最後のホテルや駅でもビザに署名し続ける。その後リトアニアはドイツに占領され、ユダヤ人の大量虐殺が始まる。ユダヤ人にとっては杉原から発給されたビザは、唯一の救いだった。しかし杉原は1947年に外務省から解雇される。1960年に彼はソ連との貿易会社を設立する。1968年に彼は初めて自分のビザで多くの人間が救われたことを知る。

E-10 「最後の移民－上海のユダヤ系移民の話」 The Story of Jewish Refugees in Shanghai 監督：Xiao-hong Cheng 2002年 アメリカ 20030326 50分

ナチス政権がドイツで成立し、支配を広げるにつれ、多くのユダヤ人が亡命を試みるが、ビザを発行してくれる国が見つからなかった。しかし1937年以降に日本に支配された上海はビザが不要であった。1938年以降、1941年の日米開戦までの間に18000人のユダヤ人が上海に居住していた。この時期、多くのユダヤ人は上海で様々な事業を展開し、新聞を刊行し（イディッシュ・英語・ドイツ語・ロシア語）、スポーツチームや劇場、ユダヤ人学校なども開設されていた。1941年秋には杉原千畝が発行したビザを持ったポーランド、リトアニア出身のユダヤ人も到着した。しかし日米開戦とともに、ユダヤ人はゲットーに押し込められ、制限された生活を送るようになる。戦争末期にはユダヤ人と中国人の間に協力関係も生じた。本作品は、戦争終了後の解放までを画像・映像資料とともに、経験者の証言によって制作されている。

E-11 「奇妙な空の下で」 Under Strange Skies 監督：Daniel Blaufokus 2002年 ポルトガル 20030864 52分

第二次世界大戦中にポルトガルは中立の立場にあった。監督の祖父母はドイツ・マクデブルク市の出身であったが、ドイツからリスボンに避難してきた。リスボンを経てアメリカ合衆国に亡命した者は多く、シャガールやハインリヒ・マン、レマルクのような有名人もいた。リスボンの避難民の生活はアメリカ合衆国のユダヤ人慈善団体の資金が頼りであった。ビザを得るとともに、ポルトガルで仕事を探すのも難題であった。ユダヤ人の中には地元のポルトガル人と結婚する人もいた。祖父母は戦後もポルトガルに残ったが、それは例外であった。

E-12 「ヴァリアンとプッツィ：20世紀の物語」 Varin and Putzi: A Twentieth Century Tale 監督：Richard Kaplan 2003年 アメリカ 20031058 80分

ヴァリアン・フライ (Varian Fry) とプッツィ・ハンフシュテングル (Putzi Hanfstaengl) はともにハーバード大学出身で、ヴァリアンは古典学を学び、プッツィは音楽を愛したが、ナチスに対しては対照的な態度をとった。ヴァリアンはベルリンオリンピック取材したとき、その反ユダヤ主義と国家統制に強い印象を受け、その後マルセイユでナチスから迫害された芸術家や思想家を救済する活動を推進した。これに対してプッツィはヒトラー支援者のドイツ人の父親を持ち、ナチスの対外報道の活動をした。最終的にはゲッベルスやヒトラーと仲違いし、ナチスのインサイダーとしてアメリカ政府に協力したが、生涯ナチスと同じ思想を持ち続けた。

E-13 「ユダヤ人救済取引」 Jews for Sale. Payment with Delivery 監督：Axel Brandt/ Berthram von Boxberg 2004年 ドイツ 20050612 90分

Roszö Katzner はハンガリーの法律家にしてシオニストであった。彼はヒムラーと交渉して1800人のユダヤ人を救い出したが、戦後イスラエルではナチスと交渉した者として糾弾され、暗殺されてしまった。ハンガリーは第二次世界大戦中にユダヤ人が生存できた最後の場所であったが、ここでも1944年3月19日にドイツ支配が及び、ホロコーストが始まる。Katzner はブダペストのユダヤ人委員会の立場でアイヒマンと交渉し、金銭でユダヤ人の生命を購入する交渉をはじめ。アイヒマンに対して、金額や人数をめぐって粘り強く交渉する。SSの高官の中にはBecherのようにドイツの敗戦を予想し、自分の身の安全の保証のために、交渉に積極的な者もいた。Katzner はなんとか1800人を救いだした後ドイツに戻り、さらなるユダヤ人を救済しようとした。ニュルンベルク裁判ではKatzner は実際にBecherのために弁護をした。

E-14 「戦争の子供たち」 War Children – Between Two Countries 監督：Erja Dammert 制作年不明 フィンランド 20050090 93分

1939年6月9日にソ連がフィンランドを侵略する。フィンランドの多くの家族は子供たちをスウェーデンに避難させる。戦時中7万人の子供がスウェーデンの里親の元で育てられた。子供たちはスウェーデン語になれていったが、戦後にフィンランドに戻ると生活条件の悪さに苦しみ、スウェーデンでの恵まれた生活を懐かしむ。中にはフィンランドに戻らない子供たちもいた。

E-15 「匿われた子供たち」 The Hidden Children 監督：Jonathan Hacker 2007年 イギリス 20070732 49分

1942年にフランスのビシー政権はナチスに協力して、ユダヤ人を収容所に送ったが、フランスでは数多くのユダヤ人の子供たちを匿い、命を救おうとする人々がいた。かろうじて生き残った4人のユダヤ人が、両親と別れた後の体験を語る。BBC制作。

E-16 「アンネ・フランクの級友たち」 Classmates of Anne Frank 監督：Eyal Boers 2008年 イ

スラエル 20091194 58分

アンネ・フランクの同級生だったテオは、妻に勧められて、級友たちの映画を撮影することを決意した。彼らはアムステルダムのユダヤ人学校に通っていた。生き残った級友たちはオランダやイスラエルに居住しているが、アンネ・フランク博物館に集まり、自分たちの体験やアンネの思い出を語り合う。アンネの他にも絶滅収容所で死去した友人がいた。テオはドイツ人家族に匿ってもらい、生き延びることができた。ユダヤ人であることを隠していたが、住民たちはどうも自分のことをユダヤ人だと知っていたらしい。皆が秘密を守ってくれたことを知る。

F 芸術家・俳優・知識人

F-1 「ティボール・ヤンカイ - 生存への芸術」 Tibor Jankay - The Art of Survival 監督：Harlan Steinberger 1995年 アメリカ 19970013 40分

ティボール・ヤンカイ (1889-1994) はハンガリー出身のユダヤ人画家である。彼の描く絵は、ピカソやシャガールを彷彿とさせる一方、アフリカ文化の影響も濃厚で、人間肯定的で生命力があふれている。いまでも亡き妻を礼賛し、彼女を描いた絵も多い。彼は、ハンガリーがドイツに占領された際、アウシュヴィッツに送られそうになったが、列車から脱走し、絵を描きながら逃亡生活を送った。いかなる苦難も、彼の人生肯定的性格を変えることはなかった。

F-2 「彼は自分をスラヴァと呼んだ」 He called himself Surava 監督：Erich Schmid 1995/ 7年 スイス 19970147 80分

1912年生まれのスイスのジャーナリストのスラヴァ (ペンネーム) は、1991年に自伝を出版したが、それは戦時中のスイスのジャーナリズムについての貴重な記録である。1933年にドイツでナチス政権ができると、スイスでも右翼政党が左派を弾圧するようになる。反ナチの立場を鮮明にしていた彼は、Nation 紙の編集長として活動するが、ゲッベルスの影響を受けたシュタイガーが、検閲を強化する。スラヴァは果敢に反ナチの活動を展開し、ユダヤ人の子供の救済運動や、フランス・オラドゥール村 (Oradour) の集団虐殺調査を行った。戦後、シュタイガーは地位を維持し、態度を一変させたが、相変わらずスラヴァの活動を邪魔し続けた。

F-3 「テレージェンでの日々」 Those Days in Terezien 監督：Sibille Schönemann 1997年 ドイツ 19970414 77分

ユダヤ人の俳優 Karel Svenk はテレージェンシュタットのゲッターの中でも、芝居を演じ、収容者たちを励まし続けた。最後には彼自身もアウシュヴィッツに送られて殺害される。彼の精神に触れようと、3人の女性が在りし日の Karel Svenk の姿を求めて回る。

F-4 「チャッツケル・レムチェン」 Uncle Chatzkel 監督：Rod Freedman 1999年 オーストラリ

ア 20010051 52分

オーストラリアに住む監督の祖母はリトアニア出身のユダヤ人である。祖母は南アフリカを経てオーストラリアに移住していた。彼女の弟、即ち監督の大叔父が現在でもリトアニアに居住しているチャッツケルである。大叔父は大学でリトアニア語を研究し、戦前、ユダヤ人の高等学校でリトアニア語を教えていた。教師仲間の女性と結婚し二人の息子が生まれた。しかし1941年にドイツ軍に占領されると、リトアニアのファシストによって3000人のユダヤ人が広場に集められ、集団虐殺された。この中には大叔父の父母（監督の曾祖父母）も含まれていた。大叔父の一家もゲットーに収容されたが、言語の専門家としての技能が活かされ、多くの書籍を言語別に整理する仕事をさせられた。しかし戦争中息子たちを亡くし、妻とも生き別れになった。戦後リトアニアに帰郷し、妻との再会を果たす。戦後はソ連統治下のリトアニアでリトアニア語の辞書の編纂に携わった。1979年に妻を亡くすと、ただ一人の親族もないままりトアニアで暮らし続けている。

F-5 「絵を見つけて」 Finding Pictures 監督：Benjamin Geisler 2002年 ドイツ 20030658 106分

作家にして画家のブルーノ・シュルツは現ウクライナの下ホロビチ市（Dohorobych）で活動したユダヤ系ポーランド人であった。彼は親衛隊長のフェリックス・ランダウ（Felix Landau）のために、彼の邸宅にフレスコ画を描いたが、結局親衛隊に殺害された。Christian Geisler（監督の父？）は、ブルーノ・シュルツのフレスコ画を求めて、地元の音楽家アルフレッド・シュライアー（シュルツの教え子）の協力により、ついにフレスコ画を見つけ出し、修繕を始める。しかしイスラエルの Yad Vashem 博物館は、それを密かに国外に持ち出してしまう。地元で生き残った数少ないユダヤ人であったシュライアーはこれに落胆する。在りし日のブルーノ・シュルツを回顧するとともに、絵画の所有権をめぐる国際関係に光を当てる。

F-6 「ロマンスとレジスタンス」 Romance and Resistance 監督：Mark Waren 2002年 アメリカ 20030140 54分

ユダヤ人の医師ギルバートはパリ歓楽街の女性の性病専門の医師であった。彼はドイツ支配下で強制収容所から脱走し、レジスタンスに参加した。彼は人気の踊り子のギジーと恋におちる。ギジーはナチス高官から可愛がられているのを利用し、ギルバートを匿い続ける。ギルバートはパリの解放までレジスタンスに参加した。二人は戦後になっても結婚せず、別々の道を歩む。ギジーはアメリカのラスベガスで活躍した。

F-7 「マルティン・ハイデッガー」 Martin Heidegger 監督：Marcel Schwierin 2003年 ドイツ 20030609 59分

哲学者ハイデッガーの生涯と思想的影響を追う。ナチス時代における師フッサール(ユダヤ人)や友人ヤスパーズとの緊張した関係、政治社会情勢が大きく変わっても続いた弟子ハンナ・アレントとの交流、フランスの実存主義者への影響、そしてフランクフルト学派からの手厳しい批判などが紹介される。

F-8 「レジスタンス・パラダイス」 Resisting Paradise 監督：Barbara Hammer 2003年 アメリカ
20030406 80分

南仏のカシスには戦時中画家のアンリ・マチスやボナールが滞在していた。またユダヤ人救済運動があって、ユダヤ人がスペインを通じて連合国側に亡命するために中継ルートにもなっていた。このためベンヤミンなども一時的に滞在していた。マチスやボナールの戦時中の生活と共に、ベンヤミンなど亡命ユダヤ人の様子、支援活動などを振り返る。

F-9 「クレンペラーの日記」 Klemperer's Diary 監督：Stan Neumann 2004年 フランス
20050672 75分

文学者・言語学者のヴィクトール・クレンペラーのナチス支配下での日記。クレンペラーはユダヤ人であったが、妻がドイツ人であったため、絶滅収容所送りを免れた。しかしナチス下でポストを奪われ、発表の場もなく、ひたすら日記を書く。自由人として日記を通じて思考を続けた。その中でナチス時代の言語を分析した。その成果は、戦後注目される。

F-10 「グロック：道化師王」 Grock: King of Crown 監督：Felici Zenoni 2004年 スイス
20050016 55分

グロックは第二次世界大戦前に、ヨーロッパ各地で活躍した人気のコメディアンである。1880年にスイスで生まれ時計工場で働くが、道化師としてハンガリー、フランス、イギリスの劇場で活動する。イギリスではチャーチルと親交があった。第一次世界大戦後はアメリカ合衆国やドイツ、イタリアでも活動する。イタリアに邸宅を購入しそこで暮らしていた。しかし戦争中、ヒトラーやゲッペルスの求めで、ドイツで演じるという失敗を犯す。戦況が悪化するとスイスに帰国し、戦後もハンブルクなどで活動した。20世紀前半にヨーロッパ各地で活動した喜劇王の物語。

F-11 「ドホロビチ最後のユダヤ人」 The Last Jew from Dohorobych 監督：Paul Rosdy 2011年
オーストリア 20130334 94分

ウクライナの都市ドホロビチには、戦前までウクライナ人、ポーランド人、ユダヤ人の3民族が共存していた。町のユダヤ人には富裕な者が多く、美しいシナゴグもあった。しかし貧しいウクライナ人の中には反セム主義も広がっていた。ほとんどのユダヤ人は1942年8月にベルゼック(Belzec)の絶滅収容所に送られて、死に絶えた。ブッヘンヴァルト(Buchenwald)の強制収

容所に送られたアルフレッド・シュライアーは、例外的に生き延びることができた。彼は作家・画家ブルーノ・シュルツの教え子でもあった。シュライアーは戦後ドホロビチに戻ったが、彼以外にユダヤ人はもう町にはいなかった。戦後は音楽家となったが、ユダヤ人であるがため、非ユダヤ人の妻とともに差別の中で人生を送った。

付 記

本調査は、故高橋卓也氏（認定 NPO 法人・山形国際ドキュメンタリー映画祭理事）からの情報提供を契機に開始した。高橋氏と映画祭山形事務局の皆様には、心よりお礼を申し上げる。

A Filmography of Documentary Films on Nazi Germany and
the Holocaust – From Entries submitted to the Yamagata
International Documentary Film Festival

YAMAZAKI Akira

After *Shoah*, directed by Claude Lanzmann, was released in 1985, numerous documentary films about the Holocaust and the Nazi regime have been produced, making it difficult to obtain an accurate conspectus of these films, addressing as they do some of the most serious issues in 20th century history. The Yamagata International Documentary Festival has been held since 1989, and many films concerning the Holocaust and the Nazi regime have been submitted. This List is composed of such films for the purpose of obtaining an overview of the genre.

